令和４年度　講演会等開催に係る共催・後援・名義使用

令和４年４月１日～令和５年３月３１日

（１）　日　時　令和４年７月２８日（木）
会　場　八戸工業大学　多目的ホール
演題等　伝統音楽保存用自動採譜装置の研究及び専任講師のデモ演奏
主　催　八戸工業大学 工学部　工学科　システム情報ｺｰｽ
共　催　一般財団法人青森県工業技術教育振興会

（２）　日　時　令和４年１０月２９日（土）
会　場　ばんらぼ(番町ｻﾃﾗｲﾄｷｬﾝﾊﾟｽ)
演題等　「住みたい家・住みたい街」ｺﾝｸｰﾙ 2022
主　催　八戸工業大学 工学部　工学科　建築土木工学ｺｰｽ
後　援　一般財団法人青森県工業技術教育振興会他

（３）　日　時　令和４年１１月７日（月）
会　場　八戸工業大学　多目的ホール
演題等　伝統音楽保存用自動採譜装置の研究及び専任講師のデモ演奏
主　催　八戸工業大学 工学部　工学科　システム情報ｺｰｽ
共　催　一般財団法人青森県工業技術教育振興会

（４）　日　時　令和５年１月１９日（木）
会　場　八戸工業大学 2 号館 203
演題等　液晶が織りなす人間模様
主　催　電気学会東北支部
後　援　一般財団法人青森県工業技術教育振興会

（５）　日　時　令和５年３月１１日（土）
会　場　ばんらぼ(番町ｻﾃﾗｲﾄｷｬﾝﾊﾟｽ)
演題等　3・11 防災フォーラム 2023
主　催　八戸工業大学　地域産業総合研究所
後　援　一般財団法人青森県工業技術教育振興会

「世界初！民謡音源から自動採譜した楽譜を使って、邦楽とジャズのコラボを実現！」

令和４年７月２８日、八戸工業大学多目的ホールにおいて、システム情報／感性デザイン併任小坂谷壽一教授が、システム情報工学科３年生、感性デザイン学科２年生合計約１００名を対象に、題記講演会を実施した。本講演では、自動採譜技術の紹介後、民謡楽譜から採譜した西洋譜をベースに、ジャズピアニストが即興で演奏し、その伴奏で民謡歌手が歌う試みで、自動採譜した譜面を使って邦楽と西洋音楽のコラボの実現は世界初の試みである。

従来、伝統音楽は口伝伝承のため譜面（三味線譜・西洋譜）が無く、継承者の育成や民謡人口の拡大、西洋音楽とのコラボが困難とされてきた。R 元年、八戸工大小坂谷壽一教授が開発した「自動採譜装置」を使って、採譜化が最も難しいとされてきた「津軽じょんがら節」など１００曲の採譜化を実現し、これらの問題を解決すると共に、各教育委員会に楽譜を寄贈してきた。今回、その集大成として採譜した民謡２曲「鰺ヶ沢甚句」、「田名部おしまこ」の西洋譜をベースに、米国グラミー賞受賞のジャズピアニスト D.マシューズ氏と民謡歌手松田隆行氏が世界で初めて即興でコラボを披露した。学生は、本場の生演奏に堪能し大層感動した様子であった。

小坂谷教授は、このような実演を伴う講演会を２００８年度から期に１～２回程度実施しており今回で１７回目となる。学生のアンケートも好評である事より、次回実施の際も新たな趣向を凝らすそうである。

また、この採譜技術は、国際学会で発表以来、特に東南アジア（民族楽器の大半が譜面無し）の伝統民族音楽の保存に役立つ事より、将来民族楽器の譜面化に向けて更なる応用展開が見込まれる。

システム情報／感性デザイン併任　小坂谷壽一

演奏の様子

地元ＴＶからインタビューを受ける学生

「住みたい家・住みたい街」コンクール 2022　実施報告書

このコンクールは、「小学生が自分たちの家や街について関心をもち、これから地域を支える人間として育つ」ことを願い、企画され継続的に実施してきており、今年で 7 年目となります。八戸市を中心とした小学校 5・6 年生を対象として、児童の考える「住みたい家・住みたい街」を A3 以下の用紙を用いて絵画、イラストなどで提案していただき、今年度は八戸市内 4 校の小学校から 6 件の応募をいただきました。10 月 29 日にばんらぼ（八戸工業大学　番町サテライトキャンパス）にて実施した最優秀作品発表会にて応募者全員に作品の紹介・コンセプトを発表していただき、最優秀作品 1 点、優秀作品 2 点、佳作 3 点を選考いたしました。

優秀作品発表会においては各児童が各々の作品に込めた思いを堂々と発表した上で、審査委員の先生方との質疑応答を通じ、自らの作品の魅力をよりアピールしようと奮闘しておりました。中でも最優秀作品に選ばれた「人と車両　住み分け　日本一　八戸市」の応募者である知野瑛俊君は、八戸三社大祭の山車のような作品模型を作成、それを用いたインパクトのある発表を行い、審査委員に強い感心を与えてくれました。他の児童も自身の作品内のまだ実在しない装置の仕組みや人とのふれあいに関する考え方などを熱弁して会場の参加者の興味をかきたててくれました。

優秀作品発表会が終了した後に、審査委員による優秀作品選考会および表彰式を実施いたしました。表彰式では最優秀賞、優秀賞および佳作を受賞した児童たちに賞状と副賞を贈呈いたしました。応募していただいた作品と模型は表彰式終了後に 11 月 6 日までばんらぼ正面入口横のブースで展示し、多くの市民の目に触れることとなりました。

継続して実施してきている本コンクールですが、年々驚くような表現手法が現れており、来年度の作品に期待で胸を躍らせています。応募してくださった方や本コンクールの実施に協力してくださった方々に感謝します。

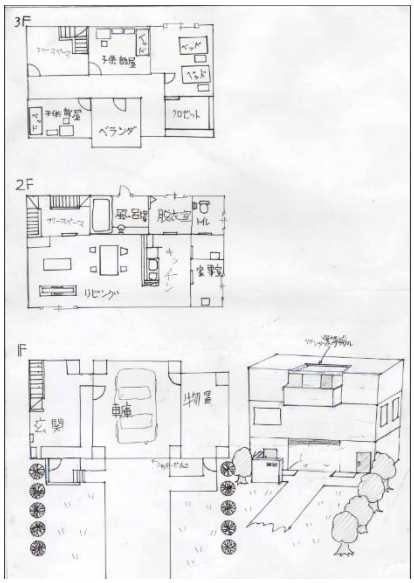
1）大きな桜が咲いている街　作：工藤紗英

2）移動できる家　作：田村凜太郎

3）人と車両　住み分け　日本一　八戸市
作：知野瑛俊

4）みんなが楽しく住める街　作：幅野心那

5）みんなが協力し合う町　作：平沼翔太



6）自分が住みたい家　作：藤沢顕都

応募作品

知野瑛俊君（最優秀賞）

工藤紗英さん（優秀賞）

田村凜太郎君（優秀賞）

優秀作品発表会の様子

表彰式の様子

「自動採譜製民謡楽譜を使って、西洋＆和洋楽器のコラボでクラシック～ジャズを奏でる！」

システム情報／感性デザイン併任　小坂谷壽一

令和４年１１月７日、本学多目的ホールにおいて、システム情報／感性デザイン併任小坂谷壽一教授が、システム情報工学科２年生、感性デザイン学科２年生合計約１００名を対象に、題記講演会を実施した。本講演では、自動採譜技術の紹介後、民謡楽譜から採譜した西洋譜をベースに、ジャズピアニスト、ヴァイオリンニスト、三味線奏者がそれぞれ即興で合奏する試みで、自動採譜した譜面を使って邦楽と西洋音楽のコラボの実現は世界初の試みである。

従来、伝統音楽は口伝伝承のため譜面（三味線譜・西洋譜）が無く、継承者の育成や民謡人口の拡大、西洋音楽とのコラボが困難とされてきた。令和元年、八戸工大小坂谷壽一教授が開発した「自動採譜装置」を使って、採譜化が最も難しいとされてきた「津軽じょんがら節」など１００曲の採譜化を実現し、これらの問題を解決すると共に、青森県、岩手県、八戸市教育委員会等に楽譜を寄贈してきた。今回、その集大成として採譜した民謡２曲「鰺ヶ沢甚句」、「田名部おしまこ」の西洋譜をベースに、米国グラミー賞受賞のジャズピアニスト D.マシューズ氏と芸大卒のユニット・ハナマス（はなわちえ：津軽三味線全国大会優勝者、沖増菜摘：TV 朝日系列「題名のない音楽会」などに出演多数）が、世界で初めて即興でコラボを披露すると同時に、クラシックの名曲をジャズ風にアレンジした「スインギング・バッハ」などを演奏した。学生は、本場の生演奏に堪能し大変感動した様子であった。

小坂谷教授は、このような実演デモを伴う特別講演会を２００８年度から期に１～２回程度実施しており、学生のアンケートも好評である事より、次回実施の際も新たな趣向を凝らすそうである。

また、この採譜技術は、２０１２年の国際学会で発表以来、特に東南アジア（民族楽器の大半が譜面が無い）の伝統民族音楽の保存に役立つ事より、将来民族楽器の譜面化に向けて更なる応用展開が見込まれる。

マシューズ氏（左端ピアノ）、沖増菜摘氏（Vn）、はなわちえ氏（三味線）の合同演奏風景

授業終了後に、受講学生をバックに講師（中央）と記念写真

2022 年度第 1 回電気学会東北支部青森支所学術講演会

去る 2023 年 1 月 19 日、2022 年度第 1 回電気学会東北支部青森支所学術講演会として八戸工業大学（以下本学）工学部工学科電気電子通信工学コース関秀廣教授の「液晶が織りなす人間模様」と題する最終講義が本学 2 号館にて開催されました。

聴講者は学内外併せて 50 名程で、石山武工学部工学科学科長補佐による関教授の略歴紹介の後に行われたご講演では、①地域課題の解決という本学開学の背景や教育理念のエピソード紹介、②それに通ずる、関教授が研究を続けることとなる液晶ディスプレイへの人々の期待と発明、③実用化に向けた関教授や恩師らの研究開発とフィールドシーケンシャル式液晶ディスプレイなどの成果の紹介がされました。また、④記念誌部会長として編集に当たった本学創立 50 周年記念事業の仕事の裏話のような、関教授の母校・秋田大学、東北大学の先生方と本学や電気電子通信工学コースとの関係、⑤FPD 次世代型技術者養成事業、防災技術社会システム研究センターといった関教授が関わった本学における教育研究事業の数々の紹介、⑥液晶ディスプレイが目指した省電力化の先にあるカーボン・ニュートラルなどの社会情勢や本学が今後果たすべき物事など、本学のこれまでと今後についてもお話ししていただきました。最後に、本学の強みや魅力は「本学が北東北で唯一の私立理工系大学として、知の拠点としての役割を果たし続けてきたこと」、「私立大学であるが故に有している活動の自由度、地域に根差した連携力があること」、「コンパクトであるが故の他分野の教育研究組織力があること」。また、「思い立ったらまずやってみよう」、「ここぞと思う時は迎合し、皆を巻き込もう」、「絆＆連携が知識工学社会を築く」との一言をいただきました。日をあらためて開催された関教授を囲む会では関教授の研究室の卒業生から在学当時のエピソードの紹介や感謝の言葉が述べられ、まさに液晶をキーワードとした色々な方々とのつながりを感じることができた一連の催しとなりました。

講演の様子

「３・１１防災フォーラム２０２３」開催報告

（記　社会連携学術推進室　齊藤　克治）

寒冷地域かつ人口減少社会におけるインフラのあり方、その維持管理と長寿命化の技術開発ならびに防災、減災のための技術開発、これらを担う人材の育成など、社会システム構築に関するこれまでの研究活動をより一層発展させるべく、2018 年より名称を「インフラ・防災技術社会システム研究センター」に変更、そして八戸工業大学地域産業総合研究所の部門へと編成し、地域に根ざした多面的な活動を継続して取り組んでいる。

その活動の一つとして、災害の状況や課題などを教訓とし、今後起こりうる災害への対策対応について考えることを目的とした「３・１１防災フォーラム２０２３」を開催した。

実施内容

日時：令和５年３月１１日（土）13：30～16：00

場所：番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」　青森県八戸市番町 9-5 協栄八戸番町ビル 1 階

主催：八戸工業大学　地域産業総合研究所

後援：（一財）青森県工業技術教育振興会

来場人数：27 名　大学教職員参加者：12 名

講演概要

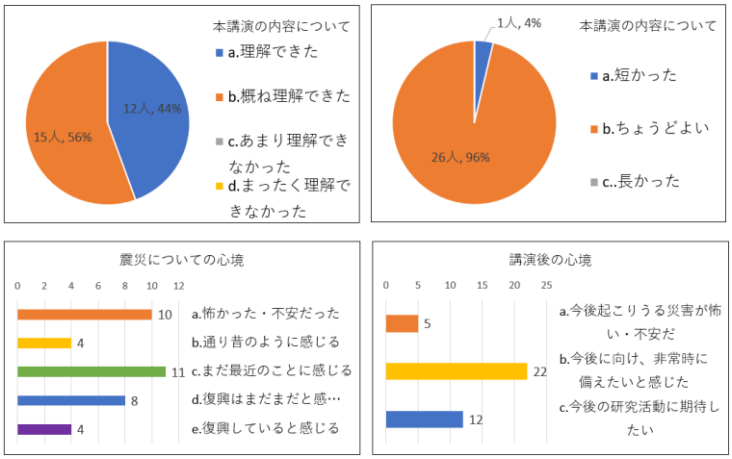
まず、主催の地域産業総合研究所所長の金子賢治より開会あいさつがあった。

続いて１つ目の講演「青森県 2022 年 8 月豪雨災害について」と題し、八戸工業大学名誉教授の佐々木　幹夫　氏より、昨年に起こった豪雨の被害概要、その被害の調査研究から特徴などについて講演いただいた。

次に、２つ目の講演「リスク論から見た自然災害：被害を大きくするものは何か」と題し、東北学院大学名誉教授の飛田　善雄　氏より、自身が関連した災害を振りかえりながら、自然災害に対するリスクや、リスクの要因について講演いただいた。

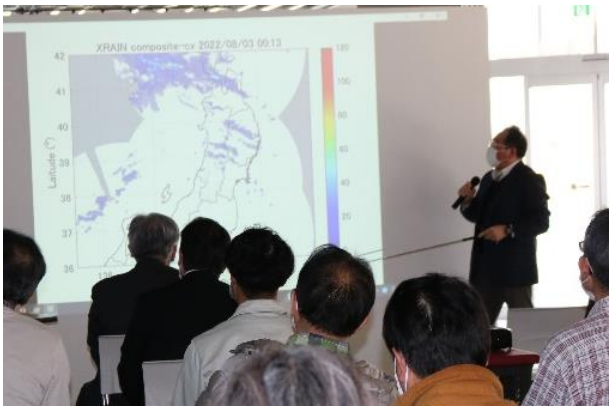
最後に、インフラ・防災技術研究部門　部門長　迫井　裕樹　准教授八戸工業大学より閉会のあいさつがあった。

アンケート結果（回答者 27 名）

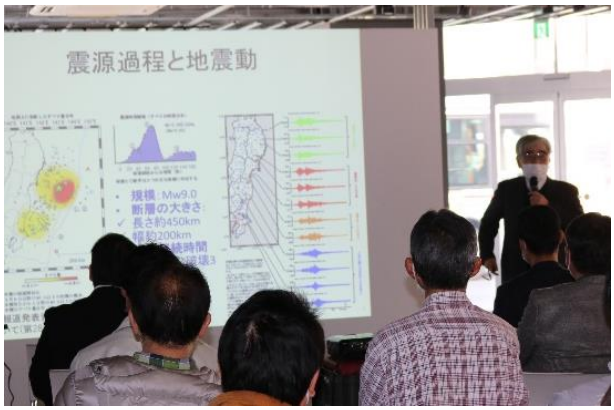


フォーラムの様子

金子所長　挨拶



八戸工業大学名誉教授　佐々木幹夫氏　特別講演



東北学院大学名誉教授　飛田善雄氏　特別講演

黙祷

迫井部門長　挨拶